

2023年度事業報告

(1) 学術集会および会務

A) 学術集会

1. 第71回学術集会（2023年4月28日～30日）
会場：パシフィコ横浜 ノース
会長：吉田正樹（東京慈恵会医科大学感染制御科）
社員総会：2023年5月27日（土）東京国際フォーラム
2. 第70回東日本支部総会（2023年10月25日～27日）
会場：東京ドームホテル
会長：時松一成（昭和大学医学部内科学講座臨床感染症学部門）
3. 第71回西日本支部総会（2023年11月9日～11日）
会場：富山国際会議場・ANAクラウンプラザホテル富山
会長：山本善裕（富山大学学術研究部医学系感染症学講座）
4. 関連国際学会として
19th Asia Pacific Congress of Clinical Microbiology and Infection (APCCMI2023)
2023年7月6日～8日（韓国）

B) 会務

1. 年度末正会員数 8,401名
年度末賛助会員数 19団体、団体会員数 90団体
2. 2023年度評議員会は2023年5月27日に、同定期総会は5月27日に東京国際フォーラムで開催された。
3. 新評議員（2023年4月～2024年3月）
東日本支部7名（現在 201名）
泉澤 友宏（東京慈恵会医科大学附属柏病院薬剤部）
宇野 俊介（慶應義塾大学医学部感染症学教室）
上蓑 義典（慶應義塾大学医学部臨床検査医学）
齋藤 翔（国立国際医療研究センター国際感染症センター・総合感染症科）
馳 亮太（成田赤十字病院感染症科）
原田 壮平（東邦大学医学部微生物・感染症学講座）
平井 潤（日本医科大学千葉北総病院感染制御部）

西日本支部2名（現在 193名）
田中 健之（長崎大学病院感染制御教育センター）
宮崎 元康（福岡大学筑紫病院薬剤部）

4. 理事会5回開催

2023年4月、5月、8月、11月、2024年2月

C) 事業報告

1. 編集委員会

1) 日本化学療法学会雑誌 (委員長 小林 治)

・編集委員会 6回開催

・編集状況

2023年 第71巻3号～6号 (※5号と6号は合併号)

一般誌 3冊 (掲載論文数5編)

原著2編 (昨年同時期8編)、短報3編 (昨年同時期4編)、

2024年 第72巻1号～2号

一般誌 2冊 (掲載論文数6編)

原著4編 (昨年同時期3編)、症例報告1編 (昨年同時期0編)、

ガイドライン0編 (昨年同時期1編)

その他編集中 1冊

・転載許諾 3件 (うち承認3件)

2) Journal of Infection and Chemotherapy (委員長 泉川公一)

・編集状況

2023年

Vol. 29 No. 4～12 (掲載論文数 155編)

2024年

Vol. 30 No. 1～3 (掲載論文数 51編)

・Reviewer of the Yearを選考し、伊東直哉会員 (名古屋市立大学医学部附属東部医療センター感染症科) と岩永直樹評議員 (長崎大学病院第2内科 (呼吸器内科)) が受賞した。

・JIC Award受賞

Yohei Doi, Takuma Ishihara, Sumi Banno, Masahiko Ando, Masashi Kondo
on behalf of the Favipiravir Observational Study

「Favipiravir for symptomatic COVID-19: A nationwide observational cohort study」 (Vol. 29 No. 2 p. 150-156)

3) 用語委員会 (委員長 清田 浩)

JIC誌および日本化学療法学会雑誌、感染症学雑誌から抽出したキーワードを

日本医学会用語集に掲載されているかどうか確認し、抽出した用語を委員会で検討した。

2. 学術委員会 (委員長 掛屋 弘)

・学術奨励賞受賞者

第71回学術集会

基礎部門

田中 愛海 (名城大学薬学部/東京薬科大学薬学部)

「複数遺伝子の同時水平伝播による *Haemophilus influenzae* のキノロン低感受性化」

臨床部門

山崎 伸吾（千葉大学医学部附属病院薬剤部）

「事前許可制を含めた Antimicrobial stewardship program が抗菌薬処方と敗血症治療成績に与える影響」

日本化学療法学会雑誌 第71巻5・6号 p.564-570, 2023

浦上 宗治（佐賀大学医学部附属病院感染制御部）

「耐性腸内細菌目細菌に対する tazobactam/ceftolozane の pharmacokinetics/ pharmacodynamics 解析」

Journal of Infection and Chemotherapy Vol.29 (11) p.1023-1032, 2023

朝居 祐貴（三重大学医学部附属病院薬剤部）

「Impact of antimicrobial stewardship program-driven educational intervention for vancomycin loading dose on mortality」

3. 学会賞選考委員会（委員長 矢野寿一）

志賀潔・秦佐八郎記念賞および上原感染症・化学療法研究奨励賞の候補者について検討し選考を行った。

志賀潔・秦佐八郎記念賞

受賞者：亀井克彦（千葉大学真菌医学研究センター 特任教授）

研究テーマ：肺真菌症の研究

—真正担子菌及びアスペルギルス感染の病態と薬剤感受性について—

上原感染症・化学療法研究奨励賞

受賞者：鴨志田 剛（京都薬科大学微生物・感染制御学分野 ※現：明治薬科大学）

研究テーマ：相変異を起点としたヘテロ耐性による新規薬剤耐性化メカニズムの解明

4. 国際渉外委員会（委員長 大毛宏喜）

2023年7月6日～8日にソウルで19th Asia Pacific Congress of Clinical Microbiology and Infection (APCCMI2023) が開催された。

5. 三学会合同ブレイクポイント臨床応用検討委員会（委員長 平松和史）

ラスクフロキサシン、ガレノキサシン、プルリフロキサシン、レボフロキサシンおよびシタフロキサシンの呼吸器感染症や尿路感染症に対するブレイクポイントについて検討し、日本化学療法学会ブレイクポイントとして日本化学療法学会雑誌 Vol.71 (4) に公表した。

6. 薬剤感受性検査検討委員会（委員長 荒岡秀樹）

東邦大学での抗菌薬含有ディスクの検討と並行して、委員の施設に2種類のラスクフロキサシンのディスクとフローズンプレートを配布して測定を実施した。

7. プロバイオティクス製剤適正使用検討委員会（委員長 森永芳智）

プロバイオティクス製剤の使用状況を把握する為、評議員にアンケート調査を行った。

8. 抗菌化学療法認定医認定制度審議委員会（委員長 青木洋介）

- ・ 抗菌薬適正使用生涯教育セミナー開催
年次テーマ：医療関連感染症 advanced basic－目前の患者診療と耐性化防止の
バランスー
第 66 回 2023 年 4 月 28 日（金）パシフィコ横浜 ノース
第 67 回 2023 年 5 月 27 日（土）東京国際フォーラム
第 68 回 2023 年 10 月 25 日（水）東京ドームホテル
第 69 回 2023 年 11 月 9 日（木）富山国際会議場
- ・ 第 67 回セミナーの映像を収録し、e-learning を実施した。
- ・ 委員会を数回、Web で開催した。
- ・ 2023 年 11 月 25 日（土）に砂防会館別館シェーンバッハ・サボーで指導医試験を実施した。
- ・ 認定医・認定歯科医師の新規申請、認定更新申請を受付し、認定した。
- ・ 2024 年 1 月 1 日付けで認定証を発行した。

9. 抗菌化学療法認定薬剤師制度委員会（委員長 木村利美）

- ・ 第 26 回講習会は日本 TDM 学会前日の 2023 年 6 月 23 日（金）に京都テルサにて開催し、第 27 回講習会は日本医療薬学会年会にあわせて 2023 年 11 月 3 日（金）に東北大学良陵会館にて開催した。
- ・ 認定薬剤師試験を 2024 年 1 月 28 日（日）に砂防会館別館シェーンバッハ・サボーで実施した。
- ・ 2024 年 3 月 1 日付で認定薬剤師を認定した。

10. 外来抗感染症薬認定薬剤師認定委員会（委員長 藤村 茂）

- ・ 外来抗感染症薬認定薬剤師試験を 2023 年 12 月 3 日（日）に実施した。
- ・ 2024 年 3 月 1 日付で認定薬剤師を認定した。

11. 四学会合同抗菌薬感受性サーベイランス委員会（実務委員長 松本哲哉）

- 1) 三学会第 8 回（2016 年）
 - ・ 尿道炎（淋菌）（3 回目：20 薬剤・目標 200 株・解析 87 株）
全国 42 施設より収集された 87 株の感受性測定結果を JIC に投稿し、2023 年 Vol. 29（11）に掲載された。
- 2) 三学会第 11 回（2019 年）
 - ・ 呼吸器感染症（9 回目：42 薬剤・目標 1000 株・解析 983 株）
全国 32 施設より収集した 932 株の感受性測定結果を JIC に投稿し、2023 年 Vol. 29（8）に掲載された。
- 3) 三学会第 12 回（2020 年）
 - ・ 単純性尿路感染症（3 回目：19 薬剤・目標 400 例・解析 569 株）
全国 42 施設から収集した 569 株について感受性測定を行い、2023 年 4 月の感染症学会/化学療法学会合同学会で報告した。また、JIC に投稿し、Vol. 30（4）に掲載された。
 - ・ 複雑性尿路感染症（4 回目：39 薬剤・目標 800 例・解析 608 株）

全国 32 施設から収集した 608 株について感受性測定を行い、2023 年 4 月の感染症学会/化学療法学会合同学会で報告した。また、JIC に投稿し、Vol. 30 (7) に掲載された。

- ・耳鼻科領域感染症（3 回目：41 薬剤・目標 1000 株）

全国 40 施設から収集した 347 株について感受性測定を行い、追加でラスクフロキサシンの嫌気性菌の測定も行うことになった。また、2 月の日本臨床微生物学会で成績を報告した。

4) 三学会第 13 回 (2021)

- ・尿道炎（淋菌）（4 回目：目標症例数 1,200 症例、10 薬剤、92 施設）

全国 55 施設から収集された 1,068 株の感受性測定結果について、2023 年 4 月の感染症学会/化学療法学会合同学会で報告した。

- ・小児科領域感染症（2 回目：32 薬剤・目標 1,000 株）

全国 24 施設にて検体を収集した。

5) 三学会第 14 回 (2022)

- ・呼吸器感染症（10 回目：目標 1,100 株、43 薬剤）

全国 28 施設にて菌株を収集し、感受性測定を行った。

- ・手術部位感染症(SSI)（4 回目：目標 1,000 例、43 薬剤）

全国 18 施設より 856 株を収集し、感受性測定を行った。

6) 2023 年度（四学会）

- ・4 月から日本環境感染学会が参画し、四学会事業となった。

- ・歯科・口腔外科領域（3 回目：*Streptococcus* spp. 32 薬剤、嫌気性菌調査薬剤 19 薬剤、目標 400 株）

全国 21 施設で 2024 年 8 月まで実施している。

- ・CDI（第 1 回：5 薬剤、目標 200 株）

全国 11 施設にて 2024 年 6 月まで実施している。

7) ホームページの更新

四学会となった為、ホームページを修正した。

12. MRSA 感染症の治療ガイドライン作成委員会（委員長 光武耕太郎）

MRSA 感染症の治療ガイドラインの改訂作業を行った。

13. JAID/JSC 感染症治療ガイド・ガイドライン作成委員会（委員長 三笠桂一）

JAID/JSC 感染症治療ガイド 2023 の電子版をホームページに会員限定で掲載し、冊子版を発行した。

14. 術後感染予防抗菌薬適正使用に関するガイドライン作成委員会 （委員長 三嶋廣繁）

術後感染症予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドラインについて、会員からの質問に回答した。

15. 淋菌感染症アドホック委員会（委員長 三嶋廣繁）

第 71 回学術集会において男性尿道炎患者より分離された淋菌に対する各種抗菌薬

の感受性測定の間接報告を行った。

16. 7学会合同感染症治療・創薬促進検討委員会（委員長 舘田一博）

・6月21日に委員会を開催し、「G7広島サミットでみられた展開～創薬促進に関する話題を中心に～」について情報共有を行った。

- 1) 「AMR創薬促進に関するトピックス ～アクションプラン改定からG7広島サミットまで～」
- 2) 「新規抗菌薬の創薬エコシステム構築に向けて」
- 3) 「感染症の創薬研究を活性化するためのアイデアについて」
- 4) 「HGPIからの情報提供：創薬促進に向けた産官学民連携・国際連携」

・2024年3月11日に委員会を開催し、「創薬エコシステム、AMR対策エコシステムをどのように描くか～産官学民・投資家の知恵と力を結集して～」について、情報共有を行った。

17. 抗微生物薬適正使用推進検討委員会（委員長 川口辰哉）

- 1) 「抗菌薬適正使用支援プログラム実践のためのガイダンス」改訂作業を行った。
- 2) 委員会開催
第1回2023年4月28日（対面）
第2回2023年8月10日（Web）
第3回2024年2月6日（Web）

18. 外来抗菌薬適正使用調査委員会（委員長 大曲貴夫）

2023年4月28日の第97回日本感染症学会総会・学術講演会/第71回日本化学療法学会学術集会 合同学会において、外来抗菌薬適正使用調査委員会による第3回アンケートの調査結果「全国の診療所医師を対象とした・抗菌薬適正使用に関するアンケート調査（第3回）」を報告した。

19. Key Drug選定ワーキンググループ（委員長 松本哲哉）

感染症治療のKey drugs見直しを行った。

20. AST育成プログラムワーキンググループ（委員長 松本哲哉）

下記のAST講習会をWebで開催した。

- 第4回AST講習会「感染対策向上加算1施設におけるAST活動」（2023年11月29日）
- 第5回AST講習会「適正使用支援チームがどのように地域と連携していくか～AMR対策も含めて～」（2024年1月24日）

21. 学術集会開催支援ワーキング（委員長 堀野哲也）

2024年および2025年に開催の各学術集会の予算書および業務委託に関する見積書について確認した。

22. 社会保険委員会（委員長 迎 寛）

医薬品・医療機器・体外診断用医薬品供給停止品目および経過措置移行予定品目に

ついて検討した。

23. インфекションコントロールドクター (ICD)制度

2023年12月 認定者28名

24. 創薬促進に向けた産官学の連携

- ・基礎研究者、臨床医を対象とした創薬促進のためのネットワーク作りのための意見交換会の開催（2023年10月27日、11月9日）
- ・基礎研究者向けの CARB-X の説明会の開催（2024年3月11日）

(2) 2023年度事業報告の附属明細書について

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する事業報告附属明細書「事業報告書内容を補足する重要な事項」に記載すべき事項はない。

2024年度事業計画

(1) 学術集会および会務

A) 学術集会

1. 第72回総会（2024年6月27日～29日）
会場：神戸国際会議場、神戸国際展示場1号館
会長：迎 寛（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科呼吸器内科学分野）
2. 第71回東日本支部総会（2024年10月17日～19日）
会場：東京ドームホテル
会長：木村利美（順天堂大学医学部附属順天堂医院薬剤部）
3. 第72回西日本支部総会（2024年11月14日～16日）
会場：神戸国際会議場、神戸ポートピアホテル
会長：掛屋 弘（大阪公立大学大学院医学研究科臨床感染制御学）
4. 関連国際学会として
33rd International Congress of Antimicrobial Chemotherapy (ICC)
2024年11月3日～6日（トルコ）

B) 会務

1. 理事会、評議員会の開催について
理事会年6回、評議員会 年1回を予定
2. 関連団体への対応
日本医学会に評議員及び医学用語委員会委員を、内科系学会社会保険連合にそれぞれの委員を派遣する。

C) 事業計画

1. 編集委員会

- 1) 日本化学療法学会雑誌
 - ・6冊発行予定（第72巻3～6号、第73巻1～2号）
 - ・編集委員会を6回開催する。
 - ・引き続き、学会誌には本学会の活動に相応しい科学的な業績を掲載したい。
 - ・転載許諾については適正な対応に努めたい。
- 2) Journal of Infection and Chemotherapy
 - ・電子版12号を発刊する予定。
 - ・編集委員会を数回、開催する。
 - ・JIC賞およびReviewer of the Yearを選考する。
- 3) 用語委員会
抗菌化学療法用語集改訂版を公表する予定である。

2. 学術委員会

学術奨励賞を選考する。

3. 学会賞選考委員会

志賀潔・秦佐八郎記念賞および上原感染症・化学療法研究奨励賞の選考を行う。

4. 国際渉外委員会

2024年11月3日～6日にトルコ（イスタンブール）で33rd International Congress of Antimicrobial Chemotherapy (ICC)が開催される予定であり、当学会との共催シンポジウムが行われる予定である。

5. 三学会合同ブレイクポイント臨床応用検討委員会

β ラクタマーゼ阻害薬合剤のブレイクポイントについても検討する予定である。

6. 薬剤感受性検査検討委員会

ラスクフロキサシン 10 μ g 含有ディスクを用いた場合の精度管理限界値を決定し、ブレイクポイント臨床応用検討委員会で決定されたブレイクポイント MIC に相当する阻止円径を確認する予定である。

7. プロバイオティクス製剤適正使用検討委員会

アンケート調査内容の解析を元に、ガイド作成に向けた方向性の検討を行い、情報提供体制など、把握のため、関係企業からヒアリングを行う予定である。

8. 抗菌化学療法認定医認定制度審議委員会

1) 抗菌薬適正使用生涯教育セミナー開催予定

年次テーマ：「適正使用の流儀：Going David!」

第70回 2024年6月27日（木）神戸国際展示場

第71回 2024年8月24日（土）東京国際フォーラム

第72回 2024年10月17日（木）東京ドームホテル

第73回 2024年11月14日（木）神戸国際会議場

※第71回は収録し、後日、e-learning を実施する予定である。

2) 抗菌化学療法認定医および指導医の資格認定

- ・10月末 指導医・認定医・認定歯科医の認定申請を締め切る。
- ・11月30日（土）に砂防会館別館シェーンバッハ・サボーで指導医試験を実施し、認定申請審査の委員会を開催する予定である。
- ・2025年1月1日付けで認定
上記事業計画を円滑に遂行するため、委員会を数回開催予定。

9. 抗菌化学療法認定薬剤師制度委員会

- ・第28回講習会は日本TDM学会前日の2024年7月13日（土）にTKP札幌駅カンファレンスセンターで開催する予定であり、第29回講習会は日本医療薬学会に合わせ、2024年11月3日（日）にトーセイホテル&セミナー幕張で開催する予定である。
- ・2025年1月26日（日）に認定薬剤師試験を実施し、認定作業を行う予定である。
- ・2025年3月1日付けで認定証を発行する予定である。

10. 外来抗感染症薬認定薬剤師認定委員会

- ・委員全員で外来抗感染症薬認定薬剤師試験の問題作成を行う予定である。

- ・ 外来抗感染症薬認定薬剤師試験を実施し、認定作業を行う予定である。
- ・ 2025年3月1日付けで認定証を発行する予定である。

11. 四学会合同抗菌薬感受性サーベイランス委員会

- 1) 三学会第 10 回 (2018 年)
 - ・ 歯科口腔外科領域 (2 回目)
論文を執筆し JIC に投稿する予定である。
- 2) 三学会第 12 回 (2020 年)
 - ・ 耳鼻科領域感染症 (3 回目)
成績を日本感染症学会・日本化学療法学会合同学会 (2024 年 6 月・神戸) で報告し、JIC に論文を投稿する予定である。
- 3) 三学会第 13 回 (2021)
 - ・ 尿道炎 (淋菌)
論文を執筆し JIC に投稿する予定である。
 - ・ 小児科領域感染症
全国 24 施設にて収集した菌株を 32 薬剤で感受性測定を行う予定である。
- 4) 三学会第 14 回 (2022)
 - ・ 呼吸器感染症 (10 回目)
成績を日本感染症学会・日本化学療法学会合同学会 (2024 年 6 月・神戸) および日本臨床微生物学会 (2025 年 1 月・名古屋) で報告し、JIC に論文を投稿する予定である。
 - ・ 手術部位感染症 (SSI)
全国 18 施設にて収集した 856 株を 43 薬剤で感受性測定を行う予定である。
- 5) 四学会 2023 年
 - ・ 歯科口腔外科領域 (3 回目 : *Streptococcus* spp. 32 薬剤、嫌気性菌調査薬剤 19 薬剤、目標 400 株)
全国 21 施設で 2024 年 8 月まで検体を収集し、感受性測定を行う予定である。
 - ・ *Clostridioides(Clostridium) difficile* 感染症 (1 回目)
全国 11 施設について検体を収集し、感受性測定を行う予定である。
- 6) 国立感染症研究所と協力し、今まで収集した臨床分離株のゲノム解析を行う予定である。
- 7) ホームページの更新
各領域の確定結果をデータベースにアップデートする予定である。

12. レジオネラ治療薬評価検討委員会 (委員長 宮下修行)

新規抗菌薬のレジオネラ症治療におけるブレイクポイントの評価を行う予定である。

13. JAID/JSC 感染症治療ガイド・ガイドライン作成委員会

呼吸器感染症治療ガイドラインを改訂する予定である

14. MRSA 感染症の診療ガイドライン作成委員会

MRSA 感染症の診療ガイドライン 2024 の冊子版を発行し、和文誌 Vol.72 巻 3 号に

Executive Summary を掲載した。

15. CDI診療ガイドライン作成委員会（委員長 國島広之）

Clostridioides difficile 感染症診療ガイドライン第3版に向けて改訂作業を行う予定である。

16. 薬剤耐性（AMR）治療ガイドライン作成委員会（委員長 柳原克紀）

日本感染症学会と合同で治療にフォーカスした薬剤耐性（AMR）治療ガイドラインの作成を行う予定である。

17. 多剤耐性菌に対する治療戦略ワーキング委員会（委員長 大毛宏喜）

耐性菌のファージ療法を見据えた基礎的検討を開始するにあたり、まずは臨床分離株を用いて有効性を示すファージの選別を実施する予定である。

18. 淋菌感染症アドホック委員会

収集した菌株の感受性測定ならびに分子疫学的解析を進める予定である。

19. 7学会合同感染症治療・創薬促進検討委員会

Pull型のインセンティブの導入について活動を続けていく予定である。

20. 抗微生物薬適正使用推進検討委員

- ・「抗微生物薬適正使用支援プログラム実践のためのガイダンス 2024年度改訂版」を公開する予定である。
- ・72回総会での委員会報告等の啓発活動を行う予定である。

21. 外来抗菌薬適正使用調査委員会

- ・第2回および第3回アンケート調査結果を和文誌およびJICに委員会報告として掲載する予定である。
- ・第4回アンケート調査を実施する予定である。

22. Key Drug選定ワーキンググループ

今後の抗菌薬の供給状況なども踏まえて臨床における評価を適宜見直す予定である。

23. AST育成プログラムワーキンググループ

年2回のAST講習会をWebで開催する予定である。

24. 学術集会開催支援ワーキング

各学術集会の予算書および業務委託に関する見積書を確認する予定である。

25. 学術集会あり方委員会（委員長 大毛宏喜）

要望があれば適宜、対応していく予定である。

26. 社会保険委員会

医薬品および医療機器・体外診断用医薬品供給停止品目、経過措置移行予定品目に

関する検討を行う予定である。

27. 利益相反委員会

日本医学会の動向をみて、利益相反指針および細則を改定する予定である。

28. 倫理委員会

要望があれば適宜、対応していく予定である。

29. インфекションコントロールドクター(ICD)制度

申請締切：2024年10月31日

30. 創薬促進に向けた産官学の連携

- ・製薬協の感染症グループと感染症領域の基礎研究者、AMEDとの意見交換会の開催
(2024年5月 22日)
- ・創薬促進に向けた産官学コンソーシアムの形成